

多様な人々の開かれた交流のための多彩なメディア

PRプロジェクトチームの活動と提案

PRプロジェクトチームは、PRを単なる宣伝ととらえず、Public Relation（＝開かれた交流）こそが大切だという考えのもと、どうやってこのサポセンを『出会いと交流の場』として盛り上げられるかを考えました。4回にわたるミーティングを経て、このサポセンを開かれ、成長していく場、様々な人がいろいろかかわりあえる場としてとらえた場合、様々な人々へのPRが多様でありひとつにまとめるのは難しく、多様なキャラクターがこのサポセンの中で生きて動いて成長してほしい…、そんなPRをしたいと思うようになりました。

そこで、「サポセンはあなたの新しいStoryを作ります」という呼びかけのもと、イメージを示すケーススタディ的なチラシやパンフレットの案をつくりながら議論を行い、整備検討委員会などに次のような提案をしました。

基本理念：多様性

市民社会・市民活動の多様性にあわせた多様・多彩なPublic Relationは、市民相互の開かれたコミュニケーションこそが市民活動そのものであると考えました。

メインターゲット：市民B

市民Aや市民Cも重要ですが、市民AはとくにPRをしなくても市民活動サポートセンターに係わる可能性が高いし、逆に市民CはかなりのPRを行っても係わる可能性が低いため、主要なターゲットとしては市民活動に関心はあるがまだ積極的に参加していない市民Bが適切だと考えました。

コンテンツ：多様な個々の人／活動に応じた多彩なコンテンツの提供

市民Bも多様な関心や背景をもち、必要な情報も異なる。また、PR-PTのメンバー自身がそうであったように、その感性も異なり、明るい前向きなキャッチコピーに好感をいだく人もいれば、違和感を抱く人もいます。

そこで、例えばキャッチコピーは幅広いイメージを喚起できるものがよく、リー

フレットやWebなどではアクセスしてきた人に応じて違う内容を示せるものがないのではないか、と提案しました。

メディア：多様なメディアを用いる。

とくに、次のような提案を行いました。

- A. 紙メディア（サポートセンターが自ら作成）
 - ・ポスター（大判。市の施設や東口ビル内、自治会掲示板などに）
 - ・チラシ（オープン前の告知用とオープン後の案内用）
 - ・リーフレット（サポセン案内。配布する人に応じて内容の違うものを挟み込むことも考える）
 - ・本のしおり（すぐに捨てられない・読書好きにアピール）
- B. マスコミ
 - ・新聞、TV、ラジオなどの取材番組として扱われるようアピール
- C. ミニコミ
 - ・各種ミニコミ誌（取材記事）
 - ・市民活動団体の会報誌などと共に送付（折り込み／版下囲みPRなど）
 - ・自治会回覧板（折り込み配布）

支援室から一言

はじめにPR-PTが作った市民活動サポートセンターのチラシ案には驚きました。サポートセンターの利用を想定している学生や主婦、会社員が言いそうなことを台詞でコメントしており、とてもユニークでした。提言書では、市民活動の関わり方の違いで市民A,B,Cと想定していますから、まさにその発想だったんですね。

ただ、総じてPR-PTの提案が総合的で長期的なものだったため、利用案内パンフレットに反映できず残念でした。今後は皆さんから提案された様々なPR戦略のアイデアを参考に、サポートセンターの魅力をアピールしていけたらと思っています。

D. Web

- ・ホームページ（プレオープン／オープン後）
 - ・既存のさいたま市内の各種サイト（地域サイト、市民活動サイトなど）へのリンクと紹介記事配信
 - ・ブログ（係わる各個人や市民活動団体による）での紹介
 - ・SNSでの紹介コーナーづくり（SNS内に「コミュニティ」をつくるなど）
 - ・メールマガジン（自前&市民活動紹介や「知っ得!さいたま」など）
- もちろん、予算や人手などの面で、これら全ての活用はできないだろうが、可能な限り幅広いメディアでPublic Relationを展開していきたい!そうあってほしいと願いを込めて提案しました。（PR-PTリーダー・岡村幸子）

メンバー名一覧

菊地順子、岡村幸子◎、北川靖夫
塩原好美、志賀美美子、清水理恵○
大工原潤○、田中和義、中野一恵
野田静枝

◎はチームリーダー、○はサブリーダー

多様な人びとの声をバックに配したチラシ案

ぼくは
創立された高校の2年、
ノリだけで、
生研会員になったけど、
ちょっと行き詰っている感じ。

顧問の先生からは、「地域参加しろ!」
って言われたけど、何をすればいい?
アサーもない生研会員じゃ、いやな
もろさげないって!

ここは予約なしで使える
ミーティングスペースがあるって
聞いて来てみたら、嬉しい!使える!
いろいろ資料も揃っているし、
市内のいろいろな団体
の活動も紹介されてい
るし、実際に活動して
いる人とも、利用して
いるから、実際の話も聞ける。

予約すればパソコンも使えるし、下の階
には図書室もあるし、考えをまとめた
り、文書を書いたりするの
にもいい

気分転換したくなったら、
外の空気で
シベン休憩（サブ）

企画書の書き方や印刷機
の使い方、製本の仕方
も教えてくれる。印刷機や
製本や種なんかも揃っ
ているから、イベントの案内チラシだ
って作ることもできるんだ。

この夏、ここで知り合った人に
誘われて、家前の設置
自転車の製作作業を
生研会で手伝ったんだ。
そのお礼として主催する
「設置自転車はなくせるか?」という
シンポジウムに参加して、意見発表した
んだ。おもしろかったよ。

ここにいると、前ことを
真剣に考えたり、意見を
言ったりすることが、全然
ダサくないって思えるから不思議だ。

そうそう、団体誌があると、
ロッカーも使えるんだよ。

PRパンフレット企画案

テーマ：市民活動デビュー!

コンセプト：市民活動サポートセンターや市民活動そのものをイメージできていない人たちに、彼等のストーリーを提示し、「ここは使える!かも?」と思わせる。

例えは? 千手千眼：人4または5名程度、四折型、縦向き、3つのバージョンを作成し、それぞれ異なるデザイン、色を施す。たくさんある、新しいバージョンを作る。

① 表紙版、キャッチコピー、イメージイラスト、見出し

② 中表紙(左)、利用イメージ

③ 中表紙(右)、利用イメージ

④ 裏表紙、利用案内、所在地、アクセス、本文、施設配置図・設備案内、あらいび、講座案内・事業案内

3つの個性ストーリーを構築（半年ごとにバージョンアップ）

①～③では、それぞれのストーリーを構築
ある日、ぼくは、市民活動デビューした（高校生バージョン）
ある日、わたしは、自分の価値「夢」について考えた（地域デビューバージョン）
ある日、わたしは、赤心チャリティ以上の仲間がほしいと思った（NPOデビューバージョン）

④は、基本情報（変更がなければ、固定）
⑤は、それぞれのストーリーにあわせて、施設・設備を案内（あるいは固定）

PR-PTで検討した、多様なターゲットに応じて変えるパンフレットの企画案。上は、その内容の一例。下は構成の案

多様な市民が交流できるルールを

—— 利用ルールプロジェクトチームの活動と提案

他施設を意識しつつの策定作業は膨大

実際のサポートセンターの運用を想定した利用ルール PT の話し合いは、第 1 期 WSG に参加した方の他、新たに参加した人など 7 人でスタートしました。

まず取り組んだのが利用ルール作成にあたって、対象となる設備や施設使用などを特定することでした。これは、従前に決定されたものや新たに追加されたものなどが既にあり、特定するにはさほど大変ではありませんでした。

しかし、他のサポートセンターの運用方法を参考にしつつ、コミュニティセンターや公民館との違いを意識し、実際に運用され始めた場合の貸出しの有無や使用方法などの肉付けについては問題が生じました。また、運営事業者としての指定管理者決定後の意向等に配慮せざるを得ない部分やサービス PT 等の議論を受けて必要とされた設備や備品などの調整など、実際の作業は細部にわたりました。

多様な市民が出会えるためのルールを

すべての PT に共通することですが、市民活動への関わり方の違う市民 A (既に市民活動を行っている人々) 市民 B (市民活動に関心をもっているが、活

動をしていない人々) 市民 C (市民活動への関心とは関係なく、ふらりと立ち寄る人々) のそれぞれが、出会い、ふれ合うことで、サポートセンターの価値を見いだせる場を提供し、市民活動への参加のきっかけづくりが進むような利用ルールを念頭に意見を出しました。

ゾーン・対象ごとのルールづくり

そこで利用ルール PT の独自案として、広いサポートセンターの空間を有効利用すべく全体的な制限をするのではなく、領域の制限を行う「ゾーン、コーナーの呼称と使い方」や、団体だけではなく個人から生まれる市民活動を進めるために「条例に基づく必要な団体登録と条例に基づかない団体登録条例」などを提案しましたが、幾つかの課題が以下のようにあがりました。

1. 相談コーナーでの専門家の常駐
専門性を伴う相談内容については、当該専門家ないし団体 (NPO) に橋渡し等の対応する。
2. 書籍・資料コーナーでの貸し出し
指定管理者の業務が広範になり、資料の提供者や収集に影響するのであれば、貸出しはしなくてもよいのでは。ただし、資料収集の拡充には意を置

いてほしい。その意味では、「書籍・資料コーナー」というより、「資料コーナー」が妥当というべきか。

3. プレイルームの利用対象年齢
通常の使用は、未就学児に限定すべきではないか。

4. 条例の休館日条例に規定のない事項について

「全く制約のない事項」と「何らかの制約 (登録など) が必要な事項」の 2 種類に整理する

このような事が、利用ルールを確立していく上で、疑問に思いついた上で、検討委員会に考えを投げかけました。

今後も、市民活動を進めるためには、利用ルールの変更も有り得るものだと思います。

(利用ルール PT リーダー・田中和義)

メンバー名一覧
荒木利治、菊地順子、小金道永
田中和義◎、鳥生公子、中野一恵○
野田静枝
◎はチームリーダー、○はサブリーダー

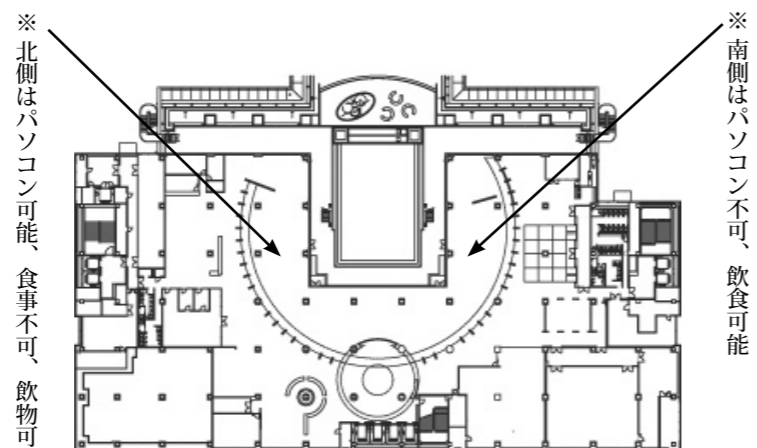
支援室から一言

利用ルール PT からは、サポートセンターを中心に多くの団体の活動をつなげる方法として地域通貨が提案されました。WS 全体会では、今後、地域通貨について、詳しく検討していくためにはプロジェクトチームの立ち上げが必要との結論になっています。もし将来、地域通貨の検討が進むとサポートセンターの新しい展開が見えてくるのではないのでしょうか？

地域通貨に限らず、利用ルールは、指定管理者や行政が決めるのではなく、利用者自らが利用者懇談会や運営協議会などの場で話し合っ

基本的な考え方

※ 施設内は広いので、入口 (エレベーター) を背に左手 (北側) と、右手 (南側) で、多様な利用者がある程度棲み分けるような利用ルールの適用を区別する



具体的なサービスイメージと利用ルール (利用ルール PT 提案) 抜粋

*一部の施設名称は変更されています。

対象施設	具体的サービス	予約と料金の有無	
相談コーナー	★市民活動への入門的な相談、実務的な相談に応じます ★窓口での対面相談は原則として 30 分以内とします ★電話での相談、インターネットメールでの相談にも応じます ★団体設立、資金調達、組織運営などの相談会を開催 ・分野別、テーマ別に定期的相談日を設定 ・NPO や専門家が相談に応じる (相談を受けられる団体と連携)	予約不要 一部内容によって、事前予約、事前申込が必要 電話でのご相談、電子メールでの相談も可 無料	
多目的サロン	★市民活動団体のためのスペースです 個人的な使用はご遠慮ください ・飲食は可	予約不要 無料です。	★利用するときは、①空いている席をご利用下さい。 ②「交流コーナー利用票」に所属団体名を記入し、名札に立てて掲示するようにしてください ★利用が終わったときは、1. 「利用アンケート」にご意見・ご感想を記入して受付カウンターにお持ち下さい。2. 椅子、テーブルを移動した場合は、元に戻してください
交流コーナー	★おおむね 10 人以上のグループが優先して利用できるスペース。 ・利用中はインフォメーションボードに団体名を記入します。 ・飲物は可能ですが、食べ物は不可です (北側)	予約不要 無料	
打合せコーナー	★事前登録している団体が優先して利用できるスペース	予約優先 (最長 3 日間) ・3 日前から使う前までに電話でご予約ください	
プレイルーム	★必ず保護者または監督者が同伴してください ・飲食は不可 ・おむつ交換は、授乳室又はトイレのベビーシートで行ってください ※おむつ交換、ゴミの後始末など、検討の余地あり	予約不要 無料 定員?	
ロッカー	(条例および施行規則に準ずる) ★利用期間は毎年 4 月 1 日から 3 月 31 日までの 1 年間。 最高 3 年までの範囲内で利用の更新ができます。 大 (○○個、1 ヶ月○○円)、小 (○○個、1 ヶ月○○円)	有料 毎年 4 月 1 日に更新	★利用する時は、①利用申込受付期間 (3 月上旬) に次年度の利用を申込ます。 ②申込多数の場合は抽選を行い、中旬までに利用団体を決定します。
メールボックス	ボックス数○○個 月額○○円 ※目的外使用の禁止 使用目的を限定することには疑問があるとの声もあり、さらに検討が必要	有料 上記 (ロッカー) と同じ条件	
貸出し機材	★館内、館外貸し出しともに事前登録団体のみ。 ・写真身分証明書の提示の義務付け ・利用期間中の破損等については、その損傷程度によって、修理もしくは新規購入など実費弁済を義務づける ・高額商品の貸出は、破損や予定返却の遅延への対応等々、非常に難しい問題が混在します。そこで、利用ルール PT では、団体又は個人が購入すると通常考えにくいものに関して、貸出すことが望ましいと考えます	無料 予約可	
パンフレット・ラック	(パンフレット等の補充、廃棄等、管理と運用は指定管理者が担当する) ・事前登録で、分野別登録もした団体のみ使用できる ・送られてきたもの、持参してきたものを設置	無料	
OA コーナー	★インターネット 1 時間、それ以外は 2 時間で (他に利用希望者がいなければ 1 回のみ延長することが出来ます) 【プリントアウト】・白黒 & A4・A3:○○円/1 枚、カラー & A4 ○○円/1 枚、カラー & A3 ○○円/1 枚	予約不要、無料 利用制限 (小学生以下不可)	★①受付で申込み、利用票を受け取ります。②終了後は PC を終了させ利用票を受付に出します。
印刷作業室	★印刷物を作成するためのコーナーです ・トラブルが発生した時は、受付にお知らせください。 ・月に○回の操作講習に参加してください。事前予約制	・予約優先、有料 ・事前に操作方法の講習を受講してください。	★「印刷等利用申込書兼精算書」に必要な事項を記入して申込み、利用後、精算します。
指定管理者との擦り合わせが必要: 各種印刷機器制限枚数、料金、使用申込方法等 (「大判カラー印刷機」については、PT 利用ルールとして実態把握ができていないので、結論が得られなかった。ランニングコストや操作性、必要性、剥り損じが出た場合の負担などの観点から、導入の是非を再度検討いただきます。)			
多目的展示コーナー	1 日～1 週間の範囲内での利用 (規則の第 3 条に準ずる)	予約制 (3 ヶ月前から)	
書籍・資料コーナー	★市民活動に必要な情報を収集し提供するコーナーです。 ★商業出版物は図書館をご利用ください ・分野別等のファイル (資料) の整備、関連書籍の選定や注文、蔵書目録整理と提供 ・市民活動団体が作成する図書・文献・会報の収集 ※ 書籍・資料コーナーでは、皆さんの情報をお待ちしております 会報やイベント案内・ボランティア募集のリーフレットなどがありましたら是非お持ち下さい 皆さんのボランティア活動をファイルして当コーナーに配架することにより、他のボランティア、来所者に情報提供することが出来ます	無料 貸出可 購入希望図書を推薦できます。 【図書リクエストカード】自由に閲覧できます	★①貸出登録後、利用カードを作成します (要身分証明証)、②貸出できる図書数は 2 冊まで、③貸出期限は 2 週間
車椅子	・受付入口付近に設置します ※センター以外での使用については、管理者の判断 ※センター所有のものであることがひと目で解るようにします	無料	
掲示ボード	・掲示期間は最大 1 ヶ月です 但し、管理者の了承を得た場合はその限りではありません ・登録団体以外の掲示はお断りします	無料	
清掃用具	・館内の施設や設備は元の状態の戻してお帰りください ・雑巾、モップ、塵取り、掃除機、ゴミ袋が必要な場合はお申し出ください	無料	

市民活動を支える「こと・もの」を提案

—— サービス内容プロジェクトチームの活動と提案

サービス内容PTは「基本計画」(p.42-45)第4章「市民活動サポートセンターの機能」に基づき、サポートセンターが提供するサービスと設備・備品を検討し、検討委員会への提案を行ないました。

他PTとも協働した活動
サービス内容PTは9名で活動しました。うち4名が整備検討委員でした。

実際に集まって話し合ったのは6回程度でしたが、メーリングリスト(ML)を使って意見交換を行い、検討結果の共有を図りました。また、他のPTにも意見を求めました。

検討・提案にあたり
まず、支援室に基本計画から検討用の表を起こしてもらいました。

- 第1期WSGから出された意見をなるべく損なわないよう配慮した結果、基本計画に加え、検討委員会に対して新たに下記の提案を行いました。
- ・大型カラー印刷機の設置
- ・コミュニケーションボードの設置
- ・地域コミュニティを含めた市民活動を掲示ボードを使って紹介する
- ・他の施設との連携を行なう
- ・高齢者・若年者への市民活動見学・説明会を開催する
- ・ボランティアを育成する
- ・市民活動アーカイブスを開発する
- ・利用者に対する緊急対応を行なう

最終的に「配慮すべき点およびそれに合った備品を提案しましたが、予算の問題もあることから優先順位の判断については、市に任せることとしました。ただし、配慮すべき点をできる限り尊重した備品の仕様書内容としてほしい。」との意見を付け、検討委員会で確認されました。

(サービス内容PTリーダー・福島まり子)

サービス内容PTの活動のダイジェスト

1. 整備基本計画に基づき、支援室が具体的なサービス内容と設備・備品案を作成
2. 上記案をたたき台とし、追加・変更等を行ったPT案を作成
3. サービス内容案を検討委員会に提案
4. 検討委員会で検討され、課題として持ち帰った内容をさらに検討し、サービス内容最終案を作成
5. 設備・備品の提案に際し、ユニバーサルデザインPTの意見を聞く。また、他PTに意見を求め、内容に反映
6. 検討委員会にサービス内容最終案ならびにそのサービスを実現するための設備・備品案を提案
7. 検討委員会に提案した最終案を、市の設備・備品選定にあたり市民の意見として尊重してもらいたい旨提案して了承される
8. 市より具体的な備品・設備の仕様選定にあたり、サービス内容PT、ユニバーサルデザインPTに意見を求められる
9. オープニングイベント開催時に設備・備品の導入状況について有志による検証作業を行い、支援室に結果を報告

メンバー名一覧
菊地順子、鳥生公子、中野一恵 野田静枝○、萩原和代、橋爪仁美、福島まり子◎、湯沢祥行、若林祥文 ◎はチームリーダー、○はサブリーダー

支援室から一言
市民活動サポートセンターの基本は、提供するサービスの内容です。 第1期ワークショップの意見を基に策定した整備基本計画に基づき、開館後の市民の利用を想定した検討を重ねた結果、大型カラー印刷機やコミュニケーションボードの設置が新たに追加され、現在、多くの市民に利用されています。 サポートセンターで使用するテーブルやいす等の備品選定にあたっては、PTの皆さんが作成した提案一覧表や様々なご意見が大変参考になりました。また、限られた予算の中で整備すべき優先順位も考慮していただき、「市民とともに成長するサポートセンター」のベースを築くうえで、大変助かりました。

サービス内容PTが提案した内容(抜粋)

サービス内容	サービス重要度*1	必要な備品等(案)			備考
		内容*2	重要度*3	配慮すべき点	
3. 交流・ネットワークの機能					
(1) 交流ネットワークの構築					
・ インターネットの掲示板等を活用した情報交換できる場を提供する。	A	パソコン(スタッフ管理業務用)	A	最新のインターネット画面を貼り出す	指定管理者が対応
・ 市民活動団体、行政、企業、学校・大学における活動や情報をメールマガジン等により発行する。	A				
・ その他交流の促進につながる情報交換の機会を提供する。	A				
(2) 交流会やイベントの開催					
・ 各分野ごと、分野や領域を超えた交流会を開催する。	A	テーブル、椅子	A	テーブル・椅子はスペースごとに組み合わせで選択、収納スペースとのかね合いも考慮して、施設全体のテーブル・椅子リストを作成し検討	3-(4)のテーブル・椅子と同じ
・ 各種サービスを一体的に提供することができる交流会を開催する。	A	ポータブルマイク、アンプ	A		

サービス内容	サービス重要度*1	必要な備品等(案)			備考
		内容*2	重要度*3	配慮すべき点	
(3) 交流コーナーの設置					
・ 分野や領域を超えた交流の促進につながる場を提供する。	A	テーブル、椅子	A	テーブル・椅子はスペースごとに組み合わせで選択、収納スペースとのかね合いも考慮して、施設全体のテーブル・椅子リストを作成し検討	・ふれあい館1階丸テーブル ・W、Yの変形菱形テーブル
・ 少人数での打合せができる場所を提供する。	A				
・ 市民活動団体間で情報交換するための掲示ボードを設置する。	A	掲示ボード	A	磁石にも対応(画鋲は使わない方がよい)	内装工事対応
・ 気軽に使用できるコミュニケーションボードを設置する。	B				
(4) 多目的・展示コーナーの設置					
・ 活動の発表やイベント等の開催ができる場を提供する。(許可制・無料)	A	展示用パネル(可動式)	A	テープ貼りやチェーン吊りもOKとする	
		展示台(机)	A	展示用パネルに合わせる。収納性のあるもの。	
		テーブル、椅子	A	テーブル・椅子はスペースごとに組み合わせで選択、収納スペースとのかね合いも考慮して、施設全体のテーブル・椅子リストを作成し検討	・テーブルは展示台としても使用可能なもの ・椅子はスタックできて軽くて丈夫なもの
		照明	B		
		演台	B	容易に移動できること	
		移動式ステージ	B	容易に移動できること	
(5) メールボックスの設置					
・ メールボックスの貸出しを行う。(許可制、有料)	A	メールボックス(A4版相当)	A	軽くて壊れにくい、透明のもの	
・ 市民活動団体あての郵便物やFAXの取り置きを行う。	A	FAX(スタッフ管理業務用)	—		指定管理者が対応
4. 情報収集・提供(発信)の機能					
(1) 市民活動データベースの構築					
・ 地域コミュニティ、自治会、市民活動団体の情報をデータベース(ホームページとリンクする)に登録する。	A	パソコン(情報通信関連機器)	A	ユニバーサルデザインJIS X 8341*5	指定管理者が対応
・ 登録した団体の情報を提供する。	A				
(2) ホームページの開設や情報誌の発行					
・ ホームページによる情報発信を行う。	A	パソコン(情報通信関連機器)	A	ユニバーサルデザインJIS X 8341	指定管理者が対応
・ ホームページ上で寄せられた意見に回答する。	A				
・ 情報誌の編集、発行を行う。	A				
・ 施設案内リーフレットの作成、配布を行う。	A				
・ その他広報活動を行う。	A				
(3) 掲示ボード、パンフレットラックの設置					
・ 掲示ボードへチラシ等の掲示を行う。	A	掲示ボード	A	磁石にも対応(画鋲は使わない方がよい)	内装工事対応
・ 地域コミュニティを含めた市民活動を掲示ボードを使って紹介する。	B	パンフレットラック	A	高すぎず、安定しているもの。幅は狭くて良い。	
・ パンフレットラックへパンフレット等の配架を行う。	A				
(4) 書籍・資料コーナーと閲覧コーナーの設置(省略)					
(5) OAコーナーの設置					

表注記:
*1: 提案したサービス内容の重要性を示し、A = 整備基本計画にあるもの、B = 整備基本計画に記載はないが、施設利用者の利便性のために必要なもの、C = サービス提供が望ましいもの、としている。
*2: 備品の形やサイズ、機能についてできるだけ具体的表現にした。
*3: 提案備品内容の重要性を示し、ランク付け根拠はサービス重要度(*1)に準じる。
*4: 参考になる具体的な事例、商品名など
*5: 高齢者・障害者等配慮設計指針—情報通信における機器、ソフトウェア及びサービス

市民だれもが使いやすい施設を求めて

ユニバーサルデザインプロジェクトチームの活動と提案

UD-PTの立ち上げ

第2期ワークショップ(WS)でユニバーサルデザイン(UD) PTは立ち上げられました。それは第1期WSに、障がい者や様々なニーズを抱える当事者が必ずしも参加しておらず、それら「耳をすまさないで聞こえてこない意見」が反映されにくいと感じたからです。

ただ、そのような当事者がWSに継続的に参加するのは、物理的にも参加の手法にも難しさがあるので、UDやバリアフリーに係る専門分野に少しでも知識のある「市民」が新たに参画し、UD-PTとして活動を開始しました。

UD-PTの位置づけと活動の特徴

UD-PTは、他のPTとは若干位置づけと活動形態が異なります。

他のPTがテーマを分けて活動・発言したのに対し、UD-PTはそれら各PTの活動にUDの観点から助言する活動を主としました。つまり分野別PTをUDという視点から横つなぎするのです。

UD-PTの実際の活動の提案内容

UD-PTの実際の活動と提案は、大きく2つのターゲットに分けられました。

1：建築物の設計・施工に並行して

この活動には、はじめから多くの困難と制約が伴いました。「市民参加」で検討が進められた施設でしたが、その設計・施工過程に予め市民参加の仕組

みが折り込まれていなかったからです。UD-PTが図面の提示を受け、建築に対して提言しようとした段階では、既にその多くは変更が困難でした。それでも、9階フロア内のサインやカウンター等造り付け什器・備品のデザインや色彩等の微調整はしてもらいました。一方、ビル全体にわたる多くの課題への提案には、ほぼ対応ははかれませんでした。

この経験は逆説的ですが、開館後に多く発生することになる様々な問題・課題を、管理運営者側が予測し対応する心の準備につながっています。

2：各PTと協力して助言

この活動では、最初に、施設オープン後どんな人が訪れるか、いわゆる招かれざる者も含めたあらゆる来訪者のシミュレーションを試みました。その上で、どんな来訪者も差別や排除せず、かつ居心地の良さと秩序と安全を確保するために何が必要か、各PTのテーマ毎にその反映に配慮してもらいました。

具体的には、①サービス内容PTと協力した調達備品検討、②利用ルールPTと協力したルールづくりでの身体障がい者や親子連れ等、多様な来訪者の想定、③情報支援PTと協力した情報のアクセシビリティの確保や施設内のIT環境とセキュリティへの配慮等です。

できたこと、できなかったこと、今後の課題

このようなUD-PTの活動の上に、当事者の参加はオープニングイベントの際に「さいたま市福祉の街づくり推進協議会・モデル地区部会」の活動と合わせて実現しました。つまり建物が完成した後には実現したのです。やはり一般的に工事現場で車いす使用者や視覚障がい者の検証を行うことは難しいし危険が伴いますから、これもまたやむなし…

UD-PTでは、10月24日の活動終了前からオープン後も引きつづきUDの視点による施設改善や管理運営体制・ユニバーサルサービスの充実を検証し見直していく必要性を強調してきました。UDにはゴール(完成)はないのです。市民だれもが使いやすい施設にするため、UD-PTが提起した課題への対応は始まったばかりです。

(UD-PT サブリーダー・三浦匡史)

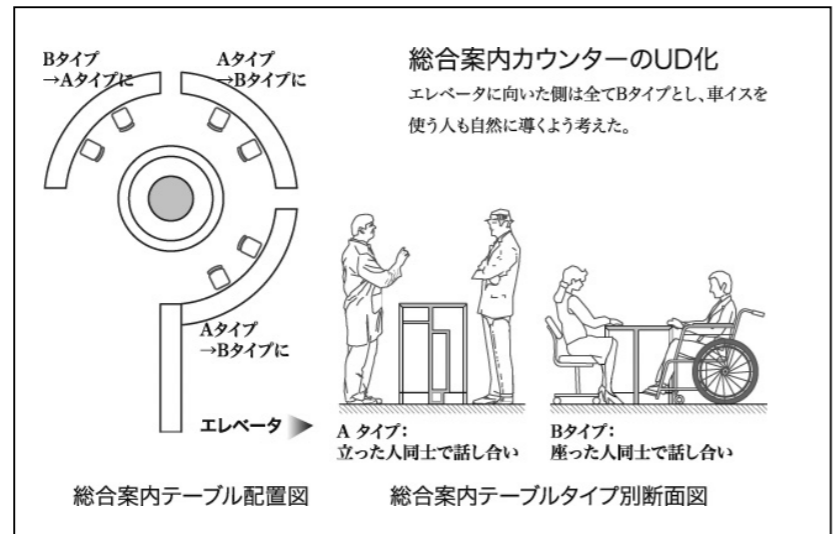
メンバー名一覧

大橋太郎 F、志賀美生子、大工原潤 A
 富田崇男 A、中野一恵、若林祥文 A
 東一邦◎、三浦匡史○ A

◎はチームリーダー、○はサブリーダー
 Aは建築関係者、Fは福祉関係者

支援室から一言

建設工事のスケジュールに間に合わせるには、UD-PTからのリクエストはぎりぎりのタイミングでした。総合カウンターを車椅子利用者の高さに合わせたり、初めて利用する人でも使いやすいようエリアごとに色分したサインの提案を採用できました。またUD-PTのアドバイスで、テーブルは高さ調節や楽な移動ができるものにするなど、利用者視点に立った備品選びができ、使う市民にとって、より優しい施設に近づきました。



UD-PTの活動を通じて提案されたことと、その結果

部位	意見の概要	検討結果
アプローチ・エントランス	メインエントランスと公共施設をインターホンで結ぶ必要がある	西側正面入口部分に身障者対応インターホンがあり、防災センターにつながっている。
	公共スペースと商業スペースの案内が混乱しないか不安。	正面入口部分に設置される案内サインで対応するとされた。
	1階入口からエレベータホールへの動線に難がある。入口前のスペースをせまくしてもよい、又店舗側が多少犠牲になってもよいから、市民施設としてのよりよい動線を考えてほしい。	商業スペースの縮小は無理であるため、サイン設置により対応した。
エレベーター	映画館のあるフロアで終了時、エレベーターを使用すると9Fまで上がってこないとの意見があり、1台は映画館フロアには停止しない等の工夫が必要。	西側エレベータは公益施設と商業施設の共用とすることが基本であり、利用状況による変更も視野に入れるが、当初は不停止階の設定は行っていない。
	利用人数に対して、エレベーター及びトイレの数が少なくないか不安。	エレベータの数については、建物全体工事のため、対応できなかった。トイレについては、基準に従って十分に確保しているという認識で追加なし。
地下駐車場	エレベーター付近と公共施設をインターホンで結ぶ必要がある	北側の人荷用エレベータの地下2階入口付近にインターホンが設置され、そこと事務所とつながっているものを利用することで対応するとされた。
	身障者用駐車スペースへの誘導とスペースの明示が必要	柱、床面に車いす利用者用駐車スペースを表示した。
西側エレベータ脇階段近くの壁	階段近くのパンフレットラックと公衆電話の間にあるカーブ状の壁は、右奥から避難する際にじゃまになるのではないか。	避難に対しては法規上の必要性は確保され、誘導灯が設けられているということから、設計者の『輪・和・環』イメージの重視により変更されなかった。
カウンター	カウンター(事務室および受け付け)の車椅子対応が不十分。カウンターの客側での足を入れられるスペースの奥行きが不足しているため、配慮が必要。	設計変更を行い、対応された。
多目的展示コーナー	多目的・展示コーナー可動間仕切りが性能・数量共に不十分なので、スペース拡大と間仕切り数量の増加を望む。また、間仕切りには遮音性能のあるものを望みたい。	市民活動サポートセンターは基本的にオープンスペースとし、間仕切りの必要な会議はコミュニティセンターを用いるという計画が基本にあり、スケジュール、予算の制限により、対応できなかった。
女子トイレ	南側の女子トイレに向かう長い廊下が不快と思われるので、トイレの場所変更などで対応を要望したい。無理なら、廊下の幅を、下地の構法を変更して80ミリ程度でも拡大するよう希望する。	トイレの位置変更は無理だったが、廊下幅の拡大は対応しされた。
男子トイレ	男子便所にもオムツ替えベッドを配してほしい。	オムツ替えベッドを設置した多目的便所に近いため、新規発注は対応できなかった。
給湯室	各コーナー(交流スペース・多目的展示コーナー等)に給湯施設を設置してほしい。	排水勾配がとりにくいという建築技術的な面と、整備検討委員会にて給湯室の設置が定まっているということにより、対応できなかった。
相談室	相談室Aおよび相談室Bのプライバシー確保のため、上部をふさぐとともに、ガラス部分も半透明にする(半透明飛散防止フィルム貼りでも可)か、内部で紗のかかったロールスクリーンを降ろせるようにすることが必要。	相談室のガラスに半透明フィルムが貼られた
プレイルーム	プレイルーム扉が開いた時に子どもが指を挟む危険性があるので、対策が必要。	竣工後に市民活動支援室が対応した
視覚障がい者配慮	視覚に障がいのある人が定位・移動がしやすいように、現状のエレベータから受付までに留まらず、他のところにも場所によって床仕上げを変えることが望ましい。その場合、単に色を変えるだけではなく、例えば、プラスチックタイル系のカーペットより硬い素材の床をライン状に配することで、床を歩いた感触を変えつつ、視覚的にも動線補助となれるのではないか。	検討はされたが、意匠的な統一性を重視する設計者の意向もあり、当初設計通り点字ブロックをエレベータから受付までつけるに留まった。
	メインエントランスの音声サインが必要	商業利用や他の利用時の支障になるため視覚障がい者用音声サインは設けられなかったが、西側正面入口部分にインターホンを設置した。
聴覚障がい者配慮	非常時の情報伝達方策は十分に考えられる必要がある	非常口には点滅型誘導灯を設置している。
サイン	「避難口」を広いフロアのどこに居てもすぐに見つけられるようにすること。	避難誘導灯が設置されている。(ただし数・見えやすさについては十分ではない)
	知覚障がい者への配慮(デザイン・種類等)、掲示位置、全館でのトータルな調整等の検討	サイン分科会で検討されたが、全館レベルでは十分には対応できなかった。
その他	空調、照明のコントロール、家具、備品のユニバーサルデザインの視点からの選択等が気になる。	オープンスペースの計画となっているため、細かなコントロールには対応していないが、ブロック単位でのコントロールは可能。備品(家具を含む)については、ユニバーサルデザインの視点から選定した(p.72-73参照)
	車いす利用者、視覚・聴覚障がい者等当事者参加によるプレオープンチェックの機会をもってほしい。	オープニングイベント中に一度実施された。

施設・設備も市民参加で

—— 市民参加による設備決定

さいたま市や指定管理者が導入する施設設備や備品についても、実際の使用者である市民の提案を可能な限り取り入れながら整備しました。

サービス内容 PT と UD-PT で協議

サービス内容 PT、ユニバーサルデザインプロジェクトチーム (UD - PT)、市民活動支援室の三者で協議を重ねて設置された設備・備品は別記の表の通りです。

主な備品や設備についての市民からの提案は次のようなものでした。

テーブルはこんな風に使いたい

交流スペースやミーティングスペースで使うテーブルは、市民や市民活動団体にとって誰もが使える快適なものでなければなりません。そのため、あらゆる局面で「どのようなテーブルが良いか」話し合われました。

その結果、「組み合わせて使えるもの」「移動用にキャスターが付いたもの」が良いという結論に達しました。また、椅子は積み重ねのできるタイプが良いと提案しました。実際に導入されたテーブルと椅子は写真の通り、数々のバリエーションで配置されています。

コントラストのある備品の色選定

また、備品等の色の選定については、内装等全体とのバランスに加えて、UD - PT の助言を得て、コントラストという面も考慮に入れました。

案内カウンターはサポートセンターの顔
サポートセンターの利用者がエレベータを降りてすぐに向かうのが総合案内カウンターです。市民はこのカウンターにこだわりました。

「車いすでの来場者にも配慮してローカウンターとハイカウンターにすること」、「杖を置く工夫をすること」、「立ち座りのしやすいキャスター付きの椅子を置くこと」を考えました。

パソコンは Windows も Mac もある

パソコンコーナーには Windows と Mac (Apple 社のマッキントッシュ) があります。市民活動のためパソコンを使用する人は自宅のパソコンで作業をすることが多いので、業務用として一般的な Windows パソコンだけでなく、印刷・出版や設計に携わる人たちが愛用している Mac も設置されています。

カラー印刷物を印刷したい



市民活動団体は大判印刷物を作るために多くの労力を費やしてきました。そのため、早い段階から大判カラープリンタの導入を望む声が出ていました。しかし、他施設の現状や1枚あたりのコストなど、リスクが大きく果たして維持できるかどうか疑問視されてきましたが、指定管理者が導入を決定しました。

すべてのプリンタ・印刷機はパソコンから直接出力することができます。

市民とともに成長を

市民からの提案のうち、コムナーレ(複合公共施設) 全体のデザイン統一の制約などから、当初の整備では対応できなかったものもありました。UD - PT からの強い要望のあったサイン(視覚情報サイン) や、カーペットの配色選定案などが上げられます。

今後は、「市民とともに成長するサポートセンター」の理念を実現するためにも、利用者懇談会や運営協議会での意見や要望等をとりいれながら、より使いやすい施設となるよう整備していきます。

検討委員会・サービス PT・UD-PTより提案した設備・備品		実際に配備された設備・備品
設備・備品	配慮すべき点	
カウンター ・総合案内 ・相談コーナー	<ul style="list-style-type: none"> 一般的な高さのカウンターとローカウンター(車いす足入れスペース)の2種類。カウンター周辺に荷物と杖を置ける工夫(フック用のもの/右欄左写真参照)。 90cmと70cmの高さのカウンターを用意。エレベーター側のカウンターを低くして欲しい。 視覚障がい者用ブロックにかからないようにして欲しい。 	提案通り (p. 4,8,70 参照) 
カウンター用椅子	<ul style="list-style-type: none"> ひじかけと背もたれ付きで低すぎないもの。(立ち座りのしやすさ) 軽くて丈夫なもの 立ち座り動作の障害にならなければ、キャスター付きが良いか? 	ハイカウンター部分は足置き付き 

検討委員会・サービス PT・UD-PTより提案した設備・備品		実際に配備された設備・備品
設備・備品	配慮すべき点	
テーブル、椅子	<ul style="list-style-type: none"> テーブルと椅子はスペースごとに組み合わせで選択・使用できるもの。 スペースとの兼ね合いも考慮して施設全体のテーブルと椅子のリストを作成し検討する。 動作に不自由な人に配慮する。高さを組み合わせられるもの。軽い素材。椅子のキャスターは不要。たためないもの。 	<ul style="list-style-type: none"> 半円と長方形の机の組み合わせ。 台形の机で、6つ組み合わせると円形になる。 机のキャスターは片側にのみついているもの。 椅子はキャスターなし。スタッキング可。 椅子用専用台車も購入。 
ソファ	<ul style="list-style-type: none"> 肘掛け付きで柔らかすぎないもの。 座面が低すぎないもの。 	<ul style="list-style-type: none"> ソファは1人掛けと3人掛けを組み合わせる。 背もたれは低め。 
書棚、ファイル棚	死角が少なく、低いもの。	高さ150cmのもの。(p.6 参照)
閲覧机、椅子	<ul style="list-style-type: none"> 大きな机 手元灯(電気スタンド)がつけられるようにする。 電源がとれること。 	<ul style="list-style-type: none"> 提案通り (p. 6 参照) 事務椅子(5点キャスター椅子・ガス式)
パンフレットラック	あまり高すぎないもの	高さ150cm。トレイ式3列4段。(p. 7 参照)
パーティション	<ul style="list-style-type: none"> 遮音で透光(死角を作らない)。 動かしやすいもの。 	<ul style="list-style-type: none"> 樹脂パネルで透光のもの。高さ180cm。(共通) 幅120cm(1連)、90cm+120cm+90cm(3連) 
パソコン(情報通信関連機器)	<ul style="list-style-type: none"> ユニバーサルデザイン JIS X 8341 参照 Mac と Windows 	提案通り (p. 7 参照)
大型カラー印刷機		提案通り (p. 6 参照)
メールボックス(A4版相当)	<ul style="list-style-type: none"> 軽くて壊れにくい。透明なもの。 障がい者に配慮する。 	<ul style="list-style-type: none"> ダイヤル施錠式で番号設定ができるもの。 中の見えるもの。 全体の姿は p.7 
ロッカー(大・小)	<ul style="list-style-type: none"> 施錠方法は利用者・管理者双方に配慮する。 中が見える扉。機密性に配慮しすぎないこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 中の見えるもの。(p.7 参照) 施錠はダイヤル式。マスターキーは指定管理者が管理。

あなたも「サポセン・デビュー」しませんか

——オープニングイベントプロジェクトチームの活動と提案

オープニングイベントをやるう!

市民と行政がいっしょに考え、整備してきたこの市民活動サポートセンターのオープン前に、ここはどういった施設でどのように利用できるのかを多くの市民に知ってもらおうと同時に、これまでさまざまな場面でセンターの整備に関わってきた人々を私たちがつくりあげたサポートセンター」と実感できる集大成のプロジェクトとして、オープニングイベント(以下、OE)を実施することとしました。

OEプロジェクトチーム(以下、OE-PT)から、市内で活動している多くの市民活動団体に「あなたもサポートセンターデビューしませんか?」と呼びかけ、楽しく賑やかなサポートセンターフェスタにすることにしました。

実施案を検討しよう!

6月13日にOE-PT、他PTリーダー、指定管理者候補者、支援室でOE準備会を発足し、実行委員会設置に向けての5回の準備会を開催し、次の実施計画案をまとめました。

1. 実施期間は、'07年10月11日(木)から10月21日(日)まで。
2. 実施場所は、市民活動サポートセンター南側と浦和コミュニティセンターの多目的ホール、第1・第2集会室、第15集会室・レクリエーションルーム1・音楽室6とする。
3. 実施内容は、団体の活動内容の紹介(①パネル・作品展示②体験コーナー③相談コーナー④活動内容についての講演⑤パフォーマンスの実施⑥その他)とする。
4. 参加資格は、さいたま市内で市民活動を行っている団体とする。
5. その他として、市民活動団体、NPO、ボランティア団体、自治会などの地縁組織に参加を呼びかける。個人の市民企画委員も募集する。事前説明会を2回開催するなど。

オープニングイベントに参加しませんか

募集した結果、111団体からの応募がありました。'07年7月28日に、応募

募団体と準備会による第1回の実行委員会を開催し、実施期間中の各会場の利用日程調整や企画委員の募集をしました。その後、4回の実行委員会を開催して全応募団体の合意のもとで進めていく中で、新たに参加する団体や辞退する団体があり、最終的には113団体が参加しました。

初日企画と最終日企画を作ろう!

参加団体の希望者、市民企画委員、準備会委員で企画委員会を構成し、OEの綱領や、各団体の実施要領を作りました。10/11の初日企画、10/21の最終日企画を計画し、実行委員会に提案しました。

何かがはじまる。ここからはじまる。

OE初日は賑やかに開幕しました。サクセスと韓国の民族音楽での軽やかな音楽の流れる中で実行委員長が開会宣言し、市民の代表と市職員が力を合わせて「くす玉開被」で会場は最高潮。会場設営も運営スタッフも市民のボランティアで、さあ、113団体による11日間のスタートです。

期間中、ヌウ(さいたま市施策PRキャラクター)が突然登場。握手したり、写真撮影したり大人気。来場者とともに体操にも挑戦!可愛い軽快な動きに拍手喝采でした。

最終日には、期間中にできた“市民の樹”の輪飾りを参加者が手にして大きな輪を作りました。「市民の力でOEが無事終わり、市民活動の大きな輪(和)ができました。この輪(和)をもっと大きくしていきましょう!」とみんなで握手



第1回オープニングイベント実行委員会の様子。一堂に会してみんなでスケジュールと場所を決める。

や交流会をして、指定管理者と市へバトナタッチしました。

113団体の11日間のOE来場者数は、12,508人にも達しました。(OE-PTリーダー・菊地順子)



第2回オープニングイベント実行委員会の様子。参加団体が会して進行を確認する。

メンバー名一覧

岡村幸子、菊地順子◎、北川靖夫
木村通恵、田中和義、野田静枝
萩原和代◎、橋爪仁美、湯沢祥行
◎はチームリーダー、○はサブリーダー

支援室から一言

市民活動サポートセンターの開館直前の休日2日間での実施をと考えていましたが、PTの皆さんの熱意に押され、11日間ものイベントを盛大に実施することができました。

全ての参加団体が集まって最初に開催した実行委員会では、各団体の参加目的がばらばらで、発表会場の取り合いが始まり、この先どうなるのかと心配でした。しかし、現地見学会を実施し実行委員会を重ねるごとに団体相互の理解が深まり、発表時間を互いに融通しあったり、さらには数団体が一緒に活動発表を行ったりと、参加者同士の連携が生まれていきました。

PTの皆さんのご苦労があったからこそ、素晴らしいオープニングイベントが開催できたと実感しています。

名称	紹介方法					
	展示	体験	相談	講演	公演	その他
特定非営利活動法人 アジアを紡ぐ会	○					○
アシスト浦和21	○			○		
アトリエ・ゆう	○					
特定非営利活動法人 アニマル・サポート・メイト	○					
アルモニア・ムジカ	○				○	
アンサンブル「フェリーチェ」					○	
生きがい彩の会	○	○			○	
いちごカンタービレ					○	
浦和拡大写本の会	○					
浦和区ボランティアネットワーク	○					
浦和タウン症児を育てる親の会 コスモス 財団法人日本タウン症協会 埼玉浦和支部	○					
浦和日本語ボランティアグループ「くすのき」	○					
浦和民主商工会婦人部	○					
特定非営利活動法人 NPO ロングステイククラブ	○		○	○		
大宮河川愛護会	○					
大宮混声合唱団					○	
大宮男声合唱団					○	
大宮民主商工会婦人部	○					
音と絵本のお話会					○	
オリパバとトランベツが吹き隊					○	
外国人119ネットワーク	○		○			○
介護保険サポーターズ与野	○					
影絵グループ花					○	
家庭倫理の会浦和	○		○			
環境NGOちびっこ探検隊	○					
北浦和いい(e)街づくり推進委員会		○				
北浦和総合型地域スポーツ・レクリエーションクラブ『ふれあいプレイランド』	○	○				
北袋お地蔵祭り実行委員会	○		○	○	○	○
緊急サポートセンター チェリッシュ	○		○	○		
くらし探検くらぶ	○					
特定非営利活動法人 くらしとお金の学校	○			○		○
特定非営利活動法人 ケア・ハンズ		○				
K&S HOUSE	○	○				
言語交流研究所 ヒッポファミリークラブ	○				○	
こうぬま・水と緑を楽しむ会	○			○		
工房 あっぶりけ	○					
コーロ西浦和					○	
コスモス浦和(在外経験者の会)	○					
ザ・グルメーズ (THE GOURMETS)	○					
ザ・フレンドシップ・フォース・オブ埼玉	○			○		
特定非営利活動法人 彩星学舎	○		○			○
さいたま ARTS 21					○	
さいたまSLAの会	○					
特定非営利活動法人 さいたまNPOセンター	○					
さいたま KIDS					○	
社団法人 埼玉県看護協会			○			
埼玉県在宅保健活動者の会南部ブロック			○			
さいたま県産木材住宅促進センター	○					
埼玉県労働者福祉協議会	○			○		
さいたま子ども劇場	○	○				
さいたま市岩槻くらしの会		○			○	
さいたま市ガールスカウト連絡協議会	○					○
さいたま市学童保育連絡協議会	○		○			
さいたま市市民活動サポートセンター 整備に伴うワークショップ有志	○					
さいたま市ソフトバレーボール連盟	○					
さいたまシンフォオペラ					○	
さいたま市福祉のまちづくりモデル地区 推進部会						○
さいたま市ボーイスカウト協議会	○		○			
さいたま市みどり愛護会	○					
さいたま中央地区更生保護女性会	○					

名称	紹介方法					
	展示	体験	相談	講演	公演	その他
さいたま童謡唱歌の会「赤い靴」						○
さいたまの小さな鳥を守る会	○					
さいたま百景選定市民委員会	○					
特定非営利活動法人 埼玉マンション管理支援センター	○		○			
財団法人 埼玉YMCA	○					
社会福祉法人 さくら草後援会	○					
笹目川の環境を守る会	○					
特定非営利活動法人 さをりひろば 大宮センター	○	○				
特定非営利活動法人 資産相談センター	○		○	○		
自主企画グループ STEP 1		○				
市政モニター連絡協議会					○	
特定非営利活動法人 自然観察さいたまフレンド	○					
特定非営利活動法人 市民放送情報センター	○			○		
JICA埼玉デスク	○		○			○
ジャズダンスチーム A i m						○
手話ダンスサークル 手をつなごう会		○				○
障がい児・者を支える親の会「ぼる」	○					
唱歌の会						○
特定非営利活動法人 自立生活センター くればす		○		○		
新舞踊 千寿会						○
生活クラブ生活協同組合	○					
瀬ヶ崎自治会	○					
太極拳絹の道						○
特定非営利活動法人 たすけあい太陽	○		○			
DANCE FACTORY 浦和		○				○
チーム絆						○
デュオ・クレセント						○
特定非営利活動法人 都市づくりNPO さいたま	○					
トランネル'S						○
仲町写真クラブ	○					
南北コリアと日本のともだち展 in さいたま実行委員会	○					
日独平和フォーラム埼玉						
日朝協会 埼玉県連合会	○					
財団法人 日本ユニセフ協会 埼玉県支部	○					○
人形劇団 モナリ座						○
社団法人 認知症の人と家族の会 埼玉県支部	○		○			
パステル(サークルFP さいたま)	○					○
特定非営利活動法人 話し方普及協会	○					
「バラのまち中央区」アートフェスタ 実行委員会	○					○
藤のわ会		○				
婦人国際平和自由連盟 埼玉地方支部	○					
フラ・ココナッツ						○
フラワーサークル「フローレンス」	○					
特定非営利活動法人 みれっと	○					
特定非営利活動法人 みんなの夢の音楽隊	○					○
洋彩の会						○
与野の水と緑を考える集い	○					
特定非営利活動法人 ライフ・アンド・エンディングセンター	○		○	○	○	
領家介護を考える会	○		○			
朗読会 ことのは						○
朗読グループ「彩」	○					○
朗読グループ《声の会》	○					○
特定非営利活動法人 わんぱくクラブ	○					